



宮司プレス 百十号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十七年十二月三十一日

◇宮司の柴田です。 いよいよ押し迫りました。 明日は、いよいよ新年、平成二十八年です。 本日の夕刻、大晦日(おおつごもり)の大祓式(おおはらいしき)と除夜祭(じょやさい)を御奉仕申し上げ。 本年の全ての神事を滞りなく執り収めます。 私にとりまして、宮司就任以来、十一回目の迎春(げいしゅん)となり、感慨(かんがい)深いものがあります。 これも偏(ひとえ)に、沢山の方々のお支えと御援助のたまものでありまして、心から感謝申し上げます。 神職の使命は、一つは、「神明奉仕(しんめいほうし)」で、ひたすらに、祭典行事にお勤めをすることです。 さらに、「清掃奉仕」、御社殿(ごしゃでん)は、言うまでも無く、神域(しんいき)の美化に心がけることです。 もう一つは、「社会奉仕」、地域社会の一員として責務を果たすことなのです。 いわば、鳥居の内も外も、隈(くま)なく、弛(たゆ)まぬ努力を惜しんではならないのが、私の使命なのです。 もっともつと謙虚に御奉仕申し上げなければと思いを新たにしているところ

です。 毎月一回発行の、彦島八幡宮宮司ニュースと銘打って発行を始めた宮司プレス、半年遅れを挽回(ばんかい)しようとして四苦八苦しております。 その発行十年を迎える歴史のなかで、月に二回発行したのは、平成二十五年の十一月に続いて二回目となります。 お待たせ致しました、一ヶ月挽回の五ヶ月遅れの第百十号の発行です。

◇先月号でも詳しく記載しましたが、今年は戦後七十年の年でした。 大東亜戦争(だいてうあせんそう)において、世界最大の工業国アメリカ相手に戦い、敗戦後、キャッチアップ、その工業国に追いつく苦勞は、筆舌に尽くしがたい、大変なものでありました。

欧米工業の単なる模倣(もほう)ではなく、日本人の勤勉・精密・職人精神・努力等の特性を、運命共同体としての集団協力の中で生かす日本の独自性が花開いたのです。 その日本人のすぐれた力によつて、奇跡的な復活復興を成し遂げ、今日があるのではないでしょうか。

◇十八世紀半ばに起こった産業革命の時代

を「ファースト・マシンエイジ」とした上で、コンピュータをはじめとするデジタル化された機械が起こしつつある現在の變化の時代を「セカンド・マシンエイジ」と位置づけられるそうです。 そのファースト・マシンエイジで、蒸気機関が肉体労働に取って代わったように、今は、機械が知的労働を代替(だいがえ)使用しているのだそうです。 三十年後の西暦二千四十五年には、人間を超える人工知能が完成するという研究もあるそうです。 いわゆる第四次産業革命、「インダストリー4.0」、ドイツが最先端をはしっているそうです。 戦後の復興を成し遂げた奇跡のように、日本人の素晴らしい特性、力を見失うことなく、「セカンド・マシンエイジ」「第四次産業革命」にも、キャッチアップしていかなくてはなりません。

◇さて、来年、平成二十八年の干支(えと)は、「丙申(ひのえさる)」で、申年です。「丙」は、はかりの柄(え)の形でもあり、机を象つたものとも言われます。 十干の三番目、五行では火に配されます。「あきらか」や「つよい」の意味をもちます。 確かに

、「丙午」などは、激しさの象徴のように認識されています。「申」は、十二支では、第九位、方位は西南西で、時刻は午後四時であるいは、その前後二時間、季節では旧暦の七

月を指します。動物では、猿をあてています。申の象形は、電光が斜めに屈して走る形で、屈伸の意味があります、それが、天神の現れる姿と考えられました。神という字は、申が多義化して作られたそうです。

「丙申」の年は、伸びたり縮んだり、善悪が相半ばでもあります。ちなみに、六十年まえの「丙申」の年は、神武景氣に沸きたち、「もはや戦後ではない」と書かれ流行語になりましたし、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸が政令指定都市にもなりました。

この平成の「丙申」は、「もはや〇〇ではない」の〇〇をなんとたとえるべきでしょう。

「辰巳（たつみ）天井、午（うま）尻下が  
り、未（ひつじ）辛抱、申酉（さるとり）騒  
ぐ。戌（いぬ）笑う、亥（い）固まる、子（  
ね）は繁栄、丑（うし）つまずく、寅（とら  
）千里を走り、卯（う）跳ねる」といわれま  
す。平成二十八年、どのように騒ぐのでし  
ょうか。申年ですから、申の語源である神  
様に委ねるしかありません。

◇毎年、干支にちなんだ、書初めをしていま  
すが、来年は、「申」の文字の入った漢字を  
使った熟語を認（したた）めようと考えてい  
ます。「神喜（じんぎ）」と「共伸（きよ  
うしん）」です。「神喜」は、神様を喜ば

す心で日々の生活を過ごし暮らし、そのこと  
が、やがて、人々が笑み栄え、地域も栄えて  
いくという意味で、私の造語（ぞうご）です  
。宮司プレス百六号百八号にも詳しく記述  
しましたが、今ある命に感謝し、自然を大切  
に人々との交流を大事に暮らす、「共に生き  
る」です。そして、明るく前向きな気持ち  
をもって日々を楽しみ、新しいものをつくり  
だす、「共に生む」です。共に生き共に生  
む、共生の生活こそが、共存共栄の道ので  
、「共に伸びる」「共伸（きょうしん）」なの  
です。これも私の造語です。「神喜心」  
「共伸」、何れも、一月二日に書初めをしま  
す。

◇セカンド・マシンエイジ、インダストリー  
4.0、時代は日進月歩、めまぐるしく変革  
し流れていこうとも、どんな時にも、神様が  
きつと守ってくださることを信じる、日本人  
の勇氣、「神信心」を忘れてはなりません。  
朝に祈り夕べに感謝という、拝神（はいしん）  
）、神前に屈伸する、敬神生活こそ、申年の  
申の字の意味するところで、「神信心」なの  
です。来る年が、皆様にとって輝かしく清  
らかな年でありますようお願い申し上げます。

◇十二月の祭典行事報告  
▼月次祭

- ◆彦島八幡宮 \*十二月一日、十五日
- ◆貴布禰神社 \*十一月一日
- ▼祈漁祭 \*十二月三日
- ▼龍宮神社例祭 \*十一月三日
- ▼大注連縄（おおしめなわ）おろし
- ◆彦島八幡宮 \*十二月六日
- ◆福浦金刀比羅宮 \*十二月十三日
- ◆田の首八幡宮 \*十二月二十三日
- ▼下関西ロータリークラブ参拝 \*十二月十六日
- ▼朝粥会 \*十二月二十一日
- ▼天長祭 \*十二月二十三日
- ▼除夜祭、大祓式 \*十二月三十一日
- ◇十二月の宮司の行事会議等活動報告
- ▼八幡宮関係団体
- ◆維蘇志会例会 \*十二月十二日
- ▼山口県神社庁、同下関支部関係
- ◆山口県神社庁下関支部幹事会 \*十二月二日
- ◆亀山八幡宮竹中宮司勤続五十年祝賀会 \*十二月四日
- ◆身分詮衡（みぶんせんこう）委員会、神社庁役員会 \*十二月十六日
- ◆小月神社渡邊宮司通夜祭参列 \*十二月二十二日
- ▼人権擁護委員活動
- ◆人権相談 \*十一月二日